



ごあいさつ

かけがえのないひとときを
患者さんと一緒に過ごしていきたい。

1980年代に始まった日本のホスピスケアですが、当院では1999年から本格的に始まりました。以来、生きる力を信じ、症状を和らげつつ、その人らしい生活を送るためのケアに力を注いでいます。そのケアを実践する核となるものは、①患者さんをケアの主演とする、②症状を和らげる、③看取りの環境をつくる、④ご家族の意向に耳を傾けることです。

目指すのが治癒ではないからこそ、患者さんの思いをよく聴き、どのような生活を希望されているのか、を整理してご家族や多職種と相談をしながら、日常生活の在り方を探ります。そうして、20床の個室では部屋ごとに違ったケアが日々営まれています。「生きることは食べることを大切にして、点滴を望まない方もおられます。食べられなくなったとき、すぐに点滴を選択するよりも、ご家族の差し入れやボランティア

が提供するおやつ、淹れたてのお茶など、口にできるものを試行錯誤していると「あー、美味しいなあ」と患者さんの表情が和らぐ、といったかけがえのないひとときを感じることがあります。

最後に、私事ですが昨年がんを患い闘病生活を送りました。最先端の医療を受け、新しい命をいただきました。命は有限であることを直視した経験を通して、1日1日を大切に生きるという希望や、人生の最終章をどのように過ごすかを考えることの大切さを身をもって感じました。ホスピスを今まで以上に身近に感じて患者さんと過ごしていきたいと願います。



愛知国際病院 副院長・看護部長 水野 寿美子さん

データ

2019年度ホスピスデータ

ホスピスの患者さんのデータです。医療スタッフ・ボランティアがチームケアをお届けしています。

■入院総数

149名
(男性 85名
女性 64名)



■平均年齢

74.7歳

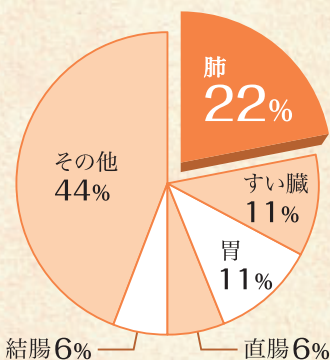


■平均在院日数

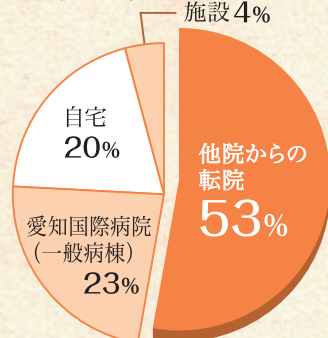
41.2日



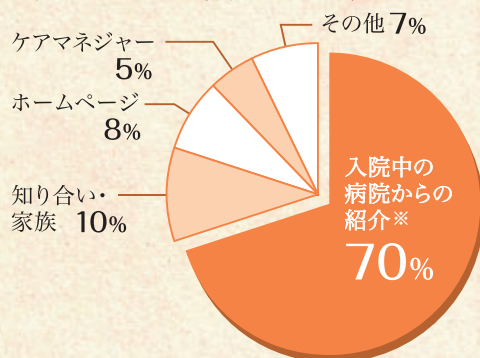
■原発部位



■入院経路



■何で知ったか(複数回答あり)



【原発部位/その他の内訳】乳5%、肝臓5%、子宮5%、前立腺4%、左記を除くその他25%

※医師、医療ソーシャルワーカーなど



ホスピスで大切にしていること

ホスピスでは、不快な症状を和らげながら穏やかな時間を過ごせるように多職種でお手伝いします。患者さんやご家族が何を願い、何を大切にしているか、お気持ちに寄り添いながら最善を考え、“今、このとき”を共に生きることを大切にしています。全室個室の自宅のようなお部屋には、生花や写真・絵画など身の回りの品も持ち込むことができます。また天気の良い日には車いすやベッドのまま中庭で日光浴をするなど、自然豊かな環境で季節を感じながらお過ごしいただけます。

※ご自宅に医師・看護師が訪問する在宅ホスピスは院内の多職種で対応しています。



ホスピスご利用の流れ

1

電話相談
☎0561-73-3191
(月～金曜日)
9時～16時

ご本人の現在の症状、治療経過などをお伺いし、ホスピス外来の予約をお取りします。

2

**ホスピス
外来受診**
完全予約制

ホスピス医師が入院に向けて具体的に症状などをお聞きします。ご家族の方のみでも結構です。

3

**ホスピス
入院**

お部屋の準備が整いましたら入院となります。

入院医療費 について

ホスピス入院費は、健康保険が適用されます（保険給付対象外の日用品、材料費などは実費にてご負担いただきます）。自己負担額が一定金額を超えるものについては、高額医療費支給制度の対象です。

現在、通院・入院中の医療機関や、ケアマネジャーを通してご連絡いただくことも可能です。

ホスピス賛助会 収支報告

環境の整備や季節の行事など、ホスピスでのさまざまな活動は賛助会のみなさまに支えられています。

収入	寄付金	2,079,000
支出	研究研修費	217,620
	環境設備費(雑費より)	746,505
	消耗品費	481,606
	食材費	397,101
	広告宣伝費(ホスピスだより制作費)	169,508
	建築費補填・運営費	66,660
支出合計		2,079,000

ホスピス賛助会入会については、法人だより「みなみやま」裏表紙をご覧ください。

クリスマス

マジックショーや、サンタさんからのプレゼントも♪

夏まつり

ミニ縁日や花火、盆踊りなどもりだくさんの企画で盛り上がります

コンサート

毎年1階ラウンジでチェロコンサートを
行っています

